

それでは、2回目の質問をいたします。

詳細な答弁、ありがとうございました。

県の防災情報システムが、地上回線と衛星回線の2回線により、構成されて県内全域をカバーしている事、「全国瞬時警報システム J-ALERT」も整備され県内の情報や国単位の情報はキャッチできることが、よく理解ができ、「受信」については、国や県の方針等で整備され、申し分の無いインフラが整備されていると理解させていただきました。

しかしながら、情報というものは、いかに速くキャッチし、そのキャッチした情報を、いかに、デリバリーするか、ということになるかと思っています。

3. 11の東日本大震災の時には、電車・バス・信号等、ありとあらゆる交通手段が麻痺状態となり、帰宅難民という言葉まで生まれ、515万人もの帰宅困難者が出たことを今でも思い出すところで、ございます。本市には都内に通勤・通学している方々が、大勢いらっしゃいます。帰宅困難者となって、影響を受けたという話も耳にしています。その一例をご紹介しますと思います。

3. 11の地震発生直後には、電気は停電にはなっていませんでしたので、パソコンの電源は入っていました。しかし、一般電話は使えない、当然電話回線がダウンしていると、インターネットもつながらない、携帯電話も通話できない、携帯のメールも使えない、そんな状態になって、していました。私は、携帯電話はスマートフォンを使っていますので、その時、インターネットで、いつも使っている、プロバイダのメールサーバーにアクセスしてみると、通常通り使え、1通のメールが受信されていました。

3月11日18:14 題名 大至急お願い

佐藤さん ○○です。

今日は東京本社勤務です。

交通機関はすべてストップです。本社ビルに籠城しようと思います。

すべての情報が遮断し、家族の安否もわかりません。

結城地区の被害状況がわかれば教えてください。

という内容で書かれていました。

3月11日18:46 約30分後に、そのメールを受信し 次のように返信致しました。お疲れさまです。

携帯からメール確認しました。結城はライフラインは大丈夫です。

小山は停電で信号は止まっていてパニック状態です。

後で○○邸に行ってきます。また、メールします。

その後、私は、その方の自宅に行って安否状況を確認し、家族には、ご主人の状況を伝え、直ぐに

携帯電話から本人にメールを送信し、家族の安否状況を伝えました。

このように、一般電話は使えない、一般回線からのインターネットも繋がらない、携帯電話の通話も出来ない、携帯電話のメールも使えない状況の中で、唯一使えたのは、携帯電話からのインターネットの接続でした。

また、東日本大震災において、唯一、情報の拡散が早かったのは、携帯電話からの、ツイッターであると、言っても過言ではないくらいに、早かったとされています。

そのツイッターが3.11の際に救援の助けになった一例を、ここで紹介したいと思います。

①まず、ある掲示板に次のコメントが出ました。

投稿日：2011/03/14(月) 21:24:38

230人以上が餓死寸前です。食料等至急お願いします。宮城の県南地域には物資が全く来ません。地域住民が30万人以上孤立状態です。メディアに無視されてる地域です。

助けてください宮城県柴田町仙南中央病院病院長

という内容の記事が掲示板に書かれました。

これを見た人がツイッターで流して拡散し、援助物資が届けられたということ。

それにこの病院長が書いた記事を見て、ある弁護士もツイッターで拡散して、次のようなツイートをしています。

「餓死寸前」というツイートの連絡があった宮城県の仙南中央病院には自衛隊、消防も連絡がつき対応中だそうです。御安心ください。

この院長が、拡散された、ツイッターを見た方が、福島からおにぎりを届けてくれた、と涙ながらに語っていた、と伺っています。

救援を求めているツイートもたくさんありました。

≪消防団お話です。一刻も早く自衛隊に入ってもらいたい 悲痛な叫びです。福島のお〇〇避難所より

2011.03.16 16:34

二本松～南相馬へ移動した話を聞きました。これから飯舘経由で二本松に戻るそうです。松川～飯野～川俣～飯舘～南相馬 ここはOKだと思います。南相馬市に救援物資・ガソリン・食料を！！！！

【拡散希望】南相馬市の方の声を友人より託されました！被曝を恐れ救援物資が届きません！政府やメディアに届け！ご協力宜しくお願い致します！

この他まだまだ急を要するようなツイートがあるが、真偽はともかくこのようなツイートが拡散して、これを見た人がツイッターで流して拡散し、援助物資が届けられ、多くの方々が助かったと伺っています。

このように、電源さえあれば、携帯端末から、有効的に使えるツイッターの今後についてお伺いいたします。

本市として、ツイッターの導入は考えているのかお伺いいたします。

また、電力の確保はライフラインが止まって、停電になってしまったときにはいくら情報をインターネット経由であれば、拡散できるといっても、電気が無いと携帯電話も使えません。そこで、現状の無停電時に、電力供給方法があるのか併せてお伺いいたします。

また、災害伝達の手段として、先ほども市民生活部長より答弁がありましたが、同報系防災行政無線を基幹設備としたシステム構築に向けた基本計画の策定があると伺いました。同報系防災行政無線については、出力の大きさや、設置場所等により、近くはうるさく、遠くは聞こえない、設置箇所が、重複すると、こだまのように聞こえ、バランスよく設置することは、非常に難しいと、耳にします。

現在は茨城県警のホームページから「ひばりくん防犯メール」に登録すれば、気象関連情報として、

地震（震度4以上）、津波情報

気象警報（大雨、洪水、暴風、波浪、高潮）

土砂災害警戒情報、竜巻注意情報はもとより、避難関連情報として

避難準備情報・避難勧告・避難指示

が携帯のメールでも受信できるようになります。

その他、結城ケーブルテレビのホームページからも、気象関連情報として地震情報や火災情報が素早く受信できるサービスがあります。

携帯電話の各3キャリアでもエリアメールや緊急地震速報メールに登録すれば、配信可能な電子上の、サービスがたくさんあります。

今後、本市と致しまして、どの様に市民に対して情報を伝えていくかが大変重要な課題になっていくと思っています。

そこで、今後の情報伝達手段について、どの様に考えているのか、お伺いいたします。

次に「バイオディーゼル燃料」についてです。

「バイオディーゼル燃料」は、使用済みのてんぷら油等の廃油を精製し、ディーゼル車のエンジンに利用するものです。

私たちの理念は、地球の自然環境を百年前に戻すことではないでしょうか。それは循環型社会の構築です。私たち人類は、地球の温暖化に始まり、様々な公害をつくってきました。今ここで元に戻す運動をしないと、子、孫や子孫が生存することすらできなくなってしまいます。

今日から美しい緑の地球を戻す活動を始めなくては破滅してしまいます。この地、から公害をなくす。地球全体から見れば、余りにも小さい単位でありますけれども、ほおってはおけません。

このバイオディーゼル燃料は、植物性の食用油を原料としていることから、軽油だけを使用する場合に比べて、排ガス中の二酸化炭素の量や黒鉛などが少なく、環境に優しいクリーンな燃料として注目をされています。

私は、植物から生まれた再生可能な有機性資源であるバイオマスエネルギーのうち、バイオディーゼル燃料は、環境面で様々な利点を持っており、今後、循環型社会を築いていくためにも、こうした課題を克服し、利用促進を図る必要があると考えます。

そこで、本市としては、循環型社会構築へ向けた、バイオディーゼル燃料の利用促進に向けての考えをお伺いをいたします。

また、本市が市民とともに進める循環型社会構築へ向けた、今後の具体的な市民の役割、手段、課題についてお伺いいたします。

次に、武道必修化についてです。

先ほどの答弁でもありましたように、今後の武道必修化実施に際し、生徒及び保護者に対しての、安心・安全は絶対不可欠だと思っています。

名古屋大学内田准教授の調査で明らかになったのは、2010年まで28年間で部活動・授業中に起きた中高生の死亡事故は114件発生したことがわかりました。これは年間4人の命を落としている計算で、内容を分析すると「初心者における事故が多い」と発表しています。受身が十分に出来ない段階で大外刈りなどの、投げ技をかけられ頭部を強打し脳を損傷するケースが多いと伺っています。

そこで、武道必修化に於ける、本市の指導面や実施じょうきょうについて、安全面の確保は、どの様な対応策がとられているのか、お伺いいたします。

2006年平成18年に全部を改正した教育基本法ですが、教育の目的と理念のところに「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、云々とありますが、今回の新学習指導要領で武道の必修化を実施に踏み切ったのは「伝統と文化の尊重」を取入れた措置だと思っています。

そこで、武道を愛する一人として、柔道でも剣道でも相撲でも言えることは、1年間で10時間前後の時間の中で、実践（いわゆるお互いに稽古）するまでの、技量が技術的に到達できることは不可能だ！と思っています。

どこに目標設定をおいて取組むかで、「伝統と文化の尊重」という目的が達成されるのではないかと思っています。現在の流れが競技に視点が行ってないか非常に危惧しています。

礼に始まって礼に終わる、日本の武道の精神を学ぶことで、

道徳性を養い→相手を重んじ→忍耐力をつけ→強い肉体と精神力を体得し、大人に成った

とき、強靱な肉体と精神力で、何事にも対応できるように、育つと考えています。
規範形成が欠けている現在、寒中素足で畳や床に正座し、座学や黙想することも武道の一つというか、これが武道だと思っているところでございます。
これからの、武道必修化に向けた今後の課題や、その取組みについてお伺いいたします。
以上で2回目の質問を終わります。